

「香合 牡丹の図」 蒔絵の高さを変えて重相感を出す「肉合蒔絵」と呼ばれる手法で製作した香合。花びらの一枚一枚の高さを変えることで、花びらや葉の重なりを効果的に表現できました。葉や木には、色や紋様に異なる金粉を施し、表情に変化と厚みをもたせました。

「香合 蓮」 全体に粗い銀粉を蒔き、緑漆と透け漆でぼかして塗り固め、側面から天面にかけて色を変化を研ぎ出し蒔絵の香合。天面の蓮は蒔絵を盛り上げて、立体感を演出。花、葉、茎にはさまざまな粗い金粉を蒔いてそれぞれの紋様の表情に変化を与えました。

香合「鶉」 梨地のバックに虚や樹皮を「下毛打ち」の技法で強調し、松の木の凹凸感を表現。葉は粗めの金粉を蒔いて緑漆で塗り固め、透き漆を塗って平滑に研ぎ出しました。鶉の羽は一枚一枚蒔絵を盛り上げた上、研ぎ出し蒔絵の技法で立体感を表現しました。

吉岡 尚美

2003年大阪美術専門学校絵画専攻コース卒業。2009年京都伝統工芸大学校蒔絵コース卒業。同年下出蒔絵司所に入所し、下出祐太郎氏に師事。2013年「京もの認定工芸士」認定。

〒600-8335
京都市下京区麗ヶ井通松原上る住吉町484
下出蒔絵司所
TEL.075-361-0320 FAX.075-351-1325



知るほどに奥深い

蒔絵の多様な技を作品に

美術学校で絵画を学んだあと、ものづくりへの思いがつのり、京都伝統工芸大学校へ入学。そこで出会った蒔絵の魅力と奥深さに惹かれ、卒業後は蒔絵師・下出祐太郎氏に師事。氏の下で皇室御用の棚や伊勢神宮の式年遷宮の御料調製などに携わりました。多彩な技術が求められる蒔絵の一つひとつの技術を習得し、仏具や家具以外にも器や文具など、暮らしの中で身近に感じ使用していただける品物をつくり、蒔絵の魅力を伝え、興味をもっていただけるよう精進していきたいです。

◆京もの認定工芸士とは…

京都の伝統工芸品(京もの)の製造に従事し、特に優れた技術を有した意欲ある若手職人に京都府知事から授与される称号。



京もの認定工芸士 第89号

よしおか
なおり
尚美